

令和 6 年度長野県公衆衛生専門学校評価表

長野県公衆衛生専門学校

第 1 重点目標

1 中・長期目標

歯科衛生士法に基づく専門的知識や技術を積極的に学び、地域社会に貢献する意識をもつ学生を養成する	
取組状況	<p>学校全体で様々な機会を通じて、学生自身が生涯歯科衛生士として働いていくという自覚を持てるよう取り組んだ。</p> <p>歯科医療業界でも超高齢化社会への対応が課題とされている背景も鑑み、介護の基本知識や口腔機能訓練等、高齢者への対応方法に特化した講義や実習を実施した。加えて学生が卒業後に対応力を発揮できるよう、実習の組立を行った。</p> <p>第三次健康日本 21 でも提唱されている「ライフコースアプローチ」を踏まえた健康づくりが重要になってくることも鑑み、今年度から実習に組み込んだ妊産婦との関わりを経験することで、将来歯科衛生士として地域医療に携わる意識を高めることができた。</p>
評価	適切

2 今年度の重点目標

長野県歯科口腔保健推進条例に謳われているオーラルフレイル対策等の新たな知見を教育に取り入れ、現在の歯科医療におけるニーズに対応した人材を育成する	
取組状況	<p>歯科医療の最新情報を講義に取り入れるとともに、専門分野の講師による特別講義等を実施し、新たな知見を加えた。</p> <p>また、信州保健医療総合計画の施策の展開に基づき、摂食嚥下機能や訪問歯科診療に関する講義や実習を行っている。今年度は舌の筋力低下に対する訓練器具を導入し、実際に使用することでオーラルフレイル対応法の理解を高めることができた。</p>
今後の取組	<p>令和 7 年度より、3 年生の病院実習にて口腔ケア等の取組を間近で見学することで知識、技術の向上を図る。</p> <p>また、今後人生の最期まで尊厳を守るために、歯科衛生士が関わる場面がさらに増えていくことが予想される。そのためにライフコースアプローチの考え方にに基づき、超高齢化社会対応していくため、終末期やエンゼルケア等の特別講義を今後も計画していく。</p>
評価	適切

キャリアデザインを意識した教育を行い、個々の特色を生かした就職活動を支援する	
取組状況	<p>就職対策講座やキャリア形成のための特別講義等を行い、生涯に渡って歯科衛生士として働くための人生設計等について認識を深めた。</p> <p>また、個別進路指導で自分の適性や就業の責務について振り返る場を設けている。</p> <p>1, 2年生は県歯科衛生士会が主催した県民公開講座に参加したことで、学び続ける歯科衛生士の姿を見ることができ、自分の将来をイメージすることができた。</p>
今後の取組	<p>3年生については、学生が自分の特徴を理解し、明確な目標をもって卒業までの過程を進めるよう教育を行う。さらにその目標を就職活動に活かしていけるよう、個別指導を充実させていく。</p>
評価	適切

理念、目的、育成人材像、特色等を広く広報し、本校の魅力を発信することで学生確保に努める	
取組状況	<p>学校公開を年6回行っている。特に体験入学では、好評だった内容を踏襲し学生と参加者とのコミュニケーションの時間を充実させることで、歯科衛生士の職業理解と学校の特色の理解は効果的だったが、歯科衛生士を目指そうとする生徒は少なかったと考えられる。</p> <p>中南信地域の高等学校を訪問し学生募集を周知した。例年、年1回の高校訪問だったが、今年度は2回に増やし、歯科衛生士の魅力を伝え、学生募集につなげる活動を続けている。</p>
今後の取組	<p>現在の広報に加え、ホームページ等で歯科衛生士業務の魅力発信等の充実を図るとともに、当校の特色を発信していくことで、学生募集、強いては歯科衛生士の確保を目指していく。</p> <p>当校の特色をアピールする掲示物等を作成し、歯科衛生士の職業周知とともに、当校の魅力発信に繋げていく。</p> <p>将来の歯科衛生士志望者を増やしていくために、中学生向けの体験イベントを企画していく。</p>
評価	ほぼ適切

第2 評価項目

1 教育活動

(1) 教育理念・目標

評 価 項 目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1			
学校の教育理念、目的、目標を定め、育成する人材像は専門分野の特性を生かしているか	4	3	2	1
教育理念等が学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
育成人材像は歯科医療業界のニーズに沿っているか	4	3	2	1

① 課題

学生、保護者に継続した周知を行い、学校が目指す人材像を共有する。

② 今後の改善方策

ホームページや全校集会、保護者会等を通じ、さらなる教育理念の周知に努める。

③ 特記事項

専門分野の特性を生かし、歯科医療や社会のニーズを把握し、人材育成像が合致しているか常に意識する。

1年生については長期休業前に「自学・自修・自治」の教育方針について学生に説明し、それを踏まえ自分自身を振り返り、課題点を改善するための取組を休業中の課題とし、内容を発表させた。

(2) 学校運営

【運営組織等の機能有効性】

評 価 項 目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1			
教育目標に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
運営組織は規則で明確化されているか。また、有効に機能しているか	4	3	2	1
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
予算執行が適正になされているか	4	3	2	1
コンプライアンスが実践され、また実践のための体制が図られているか	4	3	2	1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

今後もホームページ等を活用し、学校運営状況を公開していく。また、ペーパーレスを意識し、SDGsに配慮した学校運営を行っていく。

③ 特記事項

学校にご協力いただいている郡市歯科医師会に会議報告を行った。

【学校案内と学生の確保】

評 価 項 目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1
学校案内等の各種資料を作成、配布し、広く情報提供を行っているか	④ 3 2 1
学校公開を開催し、本校の魅力をPRしているか	④ 3 2 1
関係団体等と協働し、学生確保に努めているか	④ 3 2 1
令和7年度の入学定員を確保できたか	4 3 ② 1

① 課題

歯科衛生士という職業の認知度が低く、歯科衛生士養成校への関心が薄い。

② 今後の改善方策

学校公開の内容や開催時期等を見直し、より高校生が魅力を感じるものに修正するなど工夫を続ける。

また、現在の広報に加え、ホームページ等を活用し学校の情報公開とともに歯科衛生士について広く周知することで、本校の認知度を上げ魅力発信に努める。さらに本校の特色をまとめたチラシを作成し、広く周知を図る。

将来の歯科衛生士志望者を増やしていくために、中学生向けの体験イベントを企画していく。

③ 特記事項

学校公開の周知について、5郡市歯科医師会に当校および学校公開についての掲示等周知のご協力を依頼した。

【ホームページの充実】

評 価 項 目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1
本校の魅力を発信するホームページとなっているか	④ 3 2 1
受験生への情報等、必要な情報提供が適切に行われているか	④ 3 2 1
閲覧しやすい構成になっているか	④ 3 2 1

① 課題

学校のホームページの構成がわかりにくく、閲覧者が欲しい情報を探しにくい。

歯科衛生士の特性を活かした写真で講義風景や実習、各種行事等の内容を公開しているが、学習状況の具体的発信が少ない。

② 今後の改善方策

学校での講義や実習風景等をカリキュラムと併せて発信することで、高校生等に入学後の具体的な学習状況や学校生活スタイルをPRする。

ホームページ全体の構成を見直し、閲覧者が見やすいホームページになるよう検討する。

SNSを活用した広報についても研究していく必要がある。

③ 特記事項

臨地実習とその特別講義の様子を関連付けて発信することで、当校のカリキュラムの理解につながっていると考えられる。

(3) 教育活動

【教育理念に則った教科活動】

評 価 項 目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1
教育課程は、教育理念、目標等に沿って体系的に策定されているか	④ 3 2 1
キャリア教育や実践的な職業教育の視点に立った科目等が設定されており、関連団体との連携による工夫・改正など内容の見直しが行われているか	④ 3 2 1
授業評価を実施する体制は組織されているか	4 ③ 2 1
教員が先端的な知識・技術等を習得するための研修や指導力育成など、資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1

① 課題

科目により授業評価を実施しているが、学校全体として評価する体制が組織されていない。

② 今後の改善方策

今後も学生アンケート等で授業に関する意見を集約する方法を検討する。

令和7年度に向けてカリキュラムを変更した。今後はさらにカリキュラムの細かい内容を見直し、科目ごとの構成も合わせて見直していく。

職員研修については、歯科医師のスタディグループの研修会や歯科医院における症例研究会等にも積極的に参加し、知見を広げている。今後授業内でその内容を学生にフィードバックしていく。

③ 特記事項

3科目で授業に対する評価アンケートを実施した。内容を精査し、改良していきつつ活用できる範囲を検討していく。

【授業・実習内容の充実】

評 価 項 目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1
グループワークなど様々な授業方法を取り入れ学生が主体的に学べるよう支援したか	④ 3 2 1
歯科医療現場の現状を把握し、現場の課題を学生に示すことができたか	④ 3 2 1
臨床実習では、教科で修得した理論や技術を臨床の場で応用できるよう、臨床的技能や態度について実習できたか	④ 3 2 1
臨地実習では各施設の特色や利用者の特性を習得できる実習ができたか	④ 3 2 1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

引き続き、教科の学習内容と臨床・臨地実習施設での実習内容について、関係機関と協議、検討して、技術革新する歯科医療現場の技術や知識を講義等に取り入れるとともに、基礎的理論に基づいた実習ができるよう協力体制を維持していく。

また、臨床・臨地実習に向けて学生と個別面談を実施し、引き続き学生個々に応じて態度面、技術面など多面的、主体的に学べるよう支援していく。さらには超高齢化社会への対応力を培うため、訪問歯科診療見学実習の実習施設を増やしていく。

③ 特記事項

3年生が歯科衛生学会に参加し、歯科業界の現状や新しい知見を学べる機会となった。

2年生も県外歯科大学における解剖学見学実習を実施することができ、人体への理解と医療倫理についての意識を深めている。

校内症例研究発表会では、学生間の質疑応答もあり、活発な意見交換も行われた。

【学習成果】

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1			
歯科衛生士国家試験の合格に向けた授業を実施できたか	④	3	2	1
地域歯科医療に貢献できる人材育成を視野に入れた教育と就職指導が実施できたか	④	3	2	1
職員会議等を通じて学生の学習状態や就業希望等を共有し、教員全体が共通意識のもとに対応できたか	④	3	2	1
卒業後のキャリア形成について情報提供し、学校の教育活動に活用しているか	④	3	2	1

① 課題

学校全体としては、卒業後2年目以降の就業状態やキャリア形成の状況については、正式には把握していない。

② 今後の改善方策

卒業生の就業等については個々の相談体制は整っており、今年度も多くの卒業生が来校した。今後も卒業生の相談に応じられるよう、開かれた学校を維持していく。

③ 特記事項

卒後1年目の卒業生については就職報告会を開催し、就業状況や1年目の悩み、やりがい等を在校生に聴講させることで具体的な進路決定やキャリアビジョンに活用できるよう工夫をしている。

また、1年生の夏期体験学習において、お世話になった施設へのお礼状を手書きで作成することで、社会人としてのマナーや地域との関わり、人とのつながり等を考えるきっかけとなった。このことから歯科衛生士として地域に貢献していく意欲を高めている。

今年度国家試験不合格者に対しては、次年度の合格に向けて全面的にバックアップしていく。

(4) 学校生活支援

【生活指導、学生支援】

評 価 項 目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1			
学生の安全管理のための取組や指導がなされているか	④	3	2	1
保護者からの支援体制や連携は図られているか	④	3	2	1
挨拶の励行や身だしなみについて TP0 に合わせた指導が実施できたか	4	③	2	1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

引き続き、医療機関に勤務する者としての自覚を促し、社会的ルールの大切さについて学習する機会を設ける。

③ 特記事項

地域の方々と協力し、不審者情報等の情報を入手した時には、いち早く学生に周知し、注意喚起を行っている。